

「情報実践創造力」を育成する「仕事体験学習」の実践と考察(2)

福田美譽*1・高橋朋子*2・松田正浩*1・東郷多津*3・西之園晴夫*4

Email: fukuda@noa-prolab.co.jp

*1: 株式会社ワークアカデミー

*2: 大和大学教育学部教育学科

*3: 京都ノートルダム女子大学人間文化学部英語英文学科

*4: NPO 法人学習開発研究所

◎Key Words 情報実践創造力, 仕事体験学習, 職業能力評価基準

1. はじめに

本研究は、職業で必要となる「情報を実践的に活用して新たなものを創造する力(情報実践創造力)」を育成する仕事ベース学習(work-based learning)の体験プログラム(以下、仕事体験学習とする)を開発することを目的としている⁽¹⁾。これまでに、体験プログラムとして学習課題、および、習得した能力を確認し発揮できる能力を査定するための基準(以下、査定基準とする)を開発し、第1回仕事体験学習の実施と振り返りを行った⁽²⁾⁽³⁾⁽⁴⁾。

本稿では、第1回の課題点を踏まえ改善したガイドブックが第2回においてどのように機能したかを考察する。

2. 仕事体験学習の概要と第1回目の課題

2.1 学習プログラムの概要

仕事体験学習は、企業の現場に近い仕事を体験できるワークショップ型の学習である。開発した学習課題は、中央職業能力開発協会(JAVADA)が開発した職業能力評価基準⁽⁵⁾における事務系職種、広告制作職種、ウェブデザイン・コンテンツ職種を対象とし、情報実践創造力が抽出された職務遂行のための基準内容と関連があるものを設定した。仕事体験学習の教材は、西之園(2006)の協働自律学習の考え方⁽⁴⁾に基づき、学習者同士が協働し主体的に学習できるように構成している。開発した学習課題を、表1に示す。

教材の詳細については前稿で説明している⁽²⁾⁽³⁾⁽⁴⁾が、大きく分けて、仕事体験学習のしおり、ガイドブック、振り返りシートの3種類である。

表1 仕事体験学習における学習課題の内容

学習課題名	該当職務	形態(時間)
Web ページ企画	事務系職種(営業事務)	集団 (60分)
チラシ制作	広告制作(クリエイティブ)	
アンケート分析	ウェブデザイン(機能デザイン)	
留守番電話対応	事務系職種(営業事務)	個人
ステッカー制作	ウェブデザイン(画像・映像)	(30分)

仕事体験学習のしおりは、学習の仕組み、仕事依頼の掲示板、タイムスケジュール、セミナールーム配置

図、ガイドブックの使い方と学び方、職業別仕事紹介カード、振り返りシートをまとめたものである。

ガイドブックは、仕事別に学習課題の内容(仕事背景、内容、手順、ワークシート、査定基準、査定するための判断基準例を含む)をまとめたものである。

振り返りシートは、学習活動の最後に自分が得た能力ポイントを書き込み、グラフ化することができる資料であり、仕事体験学習の履歴として自身で管理できるものである。

2.2 第1回仕事体験学習からの課題

第1回仕事体験学習は2015年10月に実施した。その後、授業記録並びに学習者からのアンケートを整理した結果、多くの改善課題が見出された。本稿では、集団形態のガイドブックならびに振り返りシートに関する改善課題を表2に示す。

表2 第1回仕事体験学習の改善課題

課題名	実践後の課題	
ガイドブック	集団形態共通 Web ページ企画	ウェブや統計用語の意味が分からず、仕事内容が理解できない場合があった。 ウェブの色を選ぶために別冊で「色彩の考え方」という参考資料を用意したが、資料のリリウムが多く、どこが重要なかつかみにくい様子が見られた。
	チラシ制作	仕事依頼内容の条件や背景が複雑で、かつ矛盾した箇所があったため、学習者が情報の整理時に混乱した。
	アンケート分析	学習内容が多く理解しにくい部分があったため、集計後グラフの作成に着手しかけたところで発表時間になってしまった。
振り返りシート	学習結果に加えて、学習計画を考える機会には至らなかった。	

3. 教材の改善と第2回仕事体験学習の実践

3.1 教材の改善内容

下記に示す方針で、教材を改善した。

- 学習者が学習のねらいを理解し、目標設定ができる仕組みを強化した。
- 限られた時間の中で課題に取り組むために、学習者が無駄な時間を使わないよう説明内容や文章表現を工夫した。
- 統計やウェブの基礎知識がない学習者であってもヒントをもとに取り組めるように調整した。

教材の修正内容を表3に示す。

表3 教材の修正内容

課題名	修正内容	
ガイドブック	集団形態共通	ガイドブック内に用語解説コーナーを設け、用語の意味を説明した。
	Web ページ企画	カラーコードと色の特徴を紹介するページ(「色の種類と特徴」)をガイドブックに追加した。
	チラシ制作	仕事依頼内容の条件設定と文章表現の変更を行った。
	アンケート分析	「広告媒体」と「広報」など、文中の用語を明確に使い分け、作成グラフの種類と特徴を詳細に提示した。
振り返りシート	学習計画の具体例を追加し、学習者が記入しやすいようにした。	

3.2 仕事体験学習実践の結果と考察

第2回の仕事体験学習は、2016年2月に、A大学のハルカスキャンパスにおいて実施した。学習者は興味関心に応じて前半と後半の2つの仕事を選択できる。学習者は大学生5名、大学院生1名の計6名であった。当日、5つの学習課題(表1)を提示したが、学習者6名全員が集団型学習課題を選択した。なお、当日は観察者4名で学習者の活動の様子を記録した。

学習者が選択した課題と活動の様子(一例)を表4に示す。Web ページ企画に取り組んだAチームでは用語解説についてじっくり読み理解しようとする姿勢が見られたが、まだ理解に苦しんでいる様子が見られた。また、Web ページの色を選ぶ際には色の説明ページを参考に検討できていた。

チラシ制作については情報を整理してまとめることができていた。

アンケート分析に取り組んだ両チームは、どちらも紙で分析に応じたグラフを作成でき、時間内に完成させることができた。しかし、その後の考察の時間が不足し不十分に活動を終わらせることになった。

振り返りシートについては、「ICT 技術がまだ足りていないので1年生で学んだ演習の見直しを繰り返していきたい。」や、「空き時間でエクセルの勉強をしたい。」といった具体的な学習計画についての発言が見られた。

4. おわりに

今回の教材改善活動によって、前回の学習プログラム実施時と比べある一定の改善が見られたが、引き続き改良を行っていく必要があることが明らかになった。今後も仕事体験学習の普及に向けて、実践検証を通じた改善活動を続けていく予定である。

なお、本研究はJSPS 科研費 JP26370679, JP16K16330の助成を受けたものです。

参考文献

- (1) Martin Hawksey, Clive Young: "WORK BASED LEARNING: THE ROLE OF ICT IN LEARNING @ WORK", pp.60-65, Proceedings of the EDEN 2005 Annual Conference (2005).
- (2) 高橋朋子, 福田美誉, 松田正浩, 東郷多津, 西之園晴夫: "「情報実践創造力を育成する仕事体験学習の設計(1)」, 日本教育実践学会研究大会論文集18, pp. 125-126.
- (3) 福田美誉, 高橋朋子, 松田正浩, 東郷多津, 西之園晴夫: "「情報実践創造力」を育成する仕事体験学習の設計(2)", 日本教育実践学会研究大会論文集18, pp. 127-128.
- (4) 福田美誉, 高橋朋子, 松田正浩, 東郷多津, 西之園晴夫: "「情報実践創造力」を育成する「仕事体験学習」の実践と考察", 情報コミュニケーション学会第13回全国大会発表論文集, (2016).
- (5) 中央職業開発協会 (JAVADA) 職業能力評価基準 http://www.hyoka.javada.or.jp/user/dn_standards.html. (参照日 2016.06.03).
- (6) 西之園晴夫, 宮田仁, 望月紫帆: 教育実践の研究手法としての教育技術学と組織シンボリズム, 教育実践研究, Vol. 8, No.1, pp. 23-34 (2006).

表4 ある学習者の活動の様子(一例)

		前半(選択課題, 行動履歴)		後半(選択課題, 行動履歴)	
Aチーム	女, 3回生	Web ページ企画	「色の種類と特徴」をみて、「色の持つ情報とかすごいな」と発言した。	アンケート分析	アンケートの回答数を数えていた。
	女, 3回生		資料を見たあとスマホで色を熱心に検索した。		色分けでアンケートの回答を整理していた。
	全体様子		用語解説を熱心に読んでいた。さらにインターネット辞書で検索し調べたが、学習時間の半分を費やしてしまった。		クロス集計する欄を分担し、グラフ作成までできていたが、発表の中でそのグラフを説明するに至らなかった。
Bチーム	男, 3回生	チラシ制作	「デジタル教材の紹介も必要」など、作成要件を意識した発言を都度していた。	アンケート分析	紙シートでのグラフ作成を2人で分担して実行し、完成させることができた。
	男, 4回生		情報が整理されていないことに気が付き、終盤に再度ワークシートをまとめ始めた。		Excel でのグラフ作成班と紙シートでの作成班に分かれて実施した。グラフ作成にかなりの時間をかけ、その後の考察時間が少なくなった。
	全体様子		最終的に情報を整理し、5W1Hを盛り込んだチラシ案を作成できたが、レイアウト表現を考慮するところまで至らなかった。		